

〔平成2年度駐村研究員会議報告・討論記録〕

転換期における農村社会の動向をめぐる諸問題

平成2年度駐村研究員会議が平成3年2月8日に標記のテーマで開催された。今回の駐村研究員会議の報告者および報告のテーマは以下の通りである。

- (1) 21世紀の農業・農村への模索——一稲作地域の苦悩——
佐藤源市（山形県遊佐町，遊佐町職員）
- (2) 新たな村づくりの展開方向
星 寛治（山形県高島町，農業・作家）
- (3) 地方都市の近郊農業の展開方向——中国野菜を中心として——
白川悦男（静岡県豊田町，豊田町農協職員）
- (4) 中山間地における果樹農業の展開——ぶどう団地形成を中心として——
新田義見（広島県三次市，元農業改良普及員）

司会は、大鎌邦雄（首席）主任研究官，矢部光保研究員の2人があたった。報告に先立ち，所長から「転換期における農村社会の動向をめぐる諸問題」というテーマを設定した趣旨について説明があった。その後4人の駐村研究員から報告があり，最後に全体討論を行った。なお，この会議には，稿末の出席者名簿にあるように関係の行政部局や試験研究機関をはじめとして所外からも多数の参加をいただいた。

以下は，その報告・討論の記録であるが，報告部分については駐村研究員ないしその連絡担当の研究員が必要最小限の手を加えただけで，なるべく忠実に再現し，討論部分については，連絡料が整理した。